あかしの社会福祉

– Akashi Council of Social Welfare –

No.131

2026 令和8年 10月

じぶんの町を良くするしくみ。 www.akaihane.or.jp

今年度も赤い羽根共同募金の季節になりました



Contents

赤い羽根共同募金運動がはじまりました …… 2・3

明石を「私、認知症です」と言えるまちへ …… 4・5

リポート地域活動 …… 6

ちょこっとボランティア体験会を開催／善意銀行 …… 7

地域福祉フォーラム／ぼうかい生活塾 …… 8

Follow Me!

Instagram 最新情報発信中!

地域の活動や社協の取り組みについて発信していきます

編集・発行

社会福祉法人 明石市社会福祉協議会

兵庫県明石市貴崎1丁目5番13号 明石市立総合福祉センター内

TEL (078) 924-9105 [代表]

FAX (078) 924-9109

info@akashi-shakyo.or.jp

https://www.akashi-shakyo.jp/

明石市社協 検索

じぶんの町を良くするしくみ。 www.akaihane.or.jp

- 気象警報の発令などにより、行事・イベントなどが中止・変更になることがあります。事前にお問い合わせください。
- 市外または携帯電話からのお電話・FAXの送信は、市外局番 (078) からおかけください。

『あかしの社会福祉』は、赤い羽根共同募金配分金により発行しています。

あかしのまちを良くするしくみ

赤い羽根共同募金運動がはじまりました

赤い羽根共同募金とは？

戦後間もない昭和22年（1947年）に「国民たすけあい運動」として始まり、今年で80回目となります。

赤い羽根共同募金が始まった頃のポスターを見ると、募金箱側面には、今では聞きなれない言葉が並んでいます。

乳児院（育児院）、高齢者施設（養老院）、母子生活支援施設（母子寮）、医療施設（療養所）の役割を果たしていた施設の名称が載っています。当時は戦争の爪痕が大きく、国民の助け合いで福祉を支え、現代へとバトンをつないできたことが伺えます。

このような歴史を持つ赤い羽根共同募金は、時代に合わせて形を変えてきました。現在では、どのようなことに使われているのでしょうか。赤い羽根共同募金の使いみちと、配分を受けた団体からのメッセージをご紹介します。



～昭和22年（1947年）のポスター～

■明石市の赤い羽根共同募金のつかいみち ～令和７年度（2025年度）～

赤い羽根共同募金のつかいみちの一つとして、公募配分事業、こども版公募配分事業があります。

公募配分事業は、市内で活動する福祉団体、ボランティアグループ、自治会・町内会、福祉施設などが『今の取り組みを広げていきたい』『新たに活動を立ち上げたい』等の想いを実現するために応募できる助成制度です。

こども版公募配分事業は、市内の小・中学校・養護学校・高等学校などに通うこどもたち自身が共同募金のつかいみちを考え、こどもたちのやりたいことや夢を叶えるために学校を通して応募することができる取り組みです。

共同募金に賛同いただいた皆様からの寄付を、公募配分を通じて身近な地域福祉活動への助成を行うとともに、助成を受けた団体が再び共同募金に関わることで支え合いの循環が生まれることを期待し、共同募金も地域福祉を支える仕組みの一部として発展していきたいとの想いを込めて実施しています。

※10月25日現在、公募配分事業を募集しています。詳しくはこちら→

公募配分の例

林小学校の皆さまからのメッセージ

こども版公募配分金で購入したソフトバレーボールで大会を開催しました。先生、保護者、地域の方などを呼び、普段話さない人とも話したり、遊んだり観戦できて楽しかったです。ソフトバレーボールは在校生へプレゼントすることができました。

卒業式用のロゼット、卒業記念のキーホルダーも６年生や先生、スクールガードさんにプレゼントできました。

楽しかったし、卒業前のいい思い出になりました。ありがとうございました。



■2026年度　明石市共同募金委員会　オリジナルピンバッジができました！



2026年度のオリジナルピンバッジは、明石市内在住・在校の高校生にデザインを募集しました。

募集の結果、40件のデザイン応募がありました。

応募していただいたすべてのデザインを明石市立総合福祉センターのロビーに展示し、来館されるみなさんに投票をしていただいた結果、兵庫県立明石高等学校の宮下 南々子さんのデザインに決定しました。

9月4日に明石高等学校にて表彰セレモニーを開催しました。

デザインへの想い

明石といえばタコと海と明石海峡大橋を描きました。
タコの足と海の水色と白のリズムでたのしさとあかるさを表しました。
見た人に動きが伝わるように色を２色使う工夫をしました。

2026年度オリジナルピンバッジ▶



昨年度の共同募金運動の様子














今年もよろしくお願いします

～明石を「私、認知症です」と言えるまちへ～

第二回認知症川柳 入選作品発表

「認知症になっても安心して自分らしく暮らせるまちづくり」を目指し、認知症川柳を募集しました。認知症川柳を考えることを通して認知症を我が事としてとらえ、新しい認知症観(※)の浸透を図るため、今回は新たに「小・中学校の部」を設け、「高校・一般の部」と共に募集をした結果、両部門で367作品の応募がありました。たくさんのご応募、本当にありがとうございました！

最優秀賞（小・中学校の部）

手をつなぎ1人じゃないよこの先も

南條　希

大西先生の評

家族のこと、地域のこと、社会全体のことへと、いたわりと信頼の輪の広がりを感じさせてくれるステキな句。

最優秀賞（高校・一般の部）

生きていてくれる笑っていてくれる

西端　康孝

大西先生の評

生きている笑っている、ではなく、「いてくれる」という言葉に相手の存在に対する尊厳の心が素晴らしい。

※ 新しい認知症観

認知症になっても、できることやしたいことがあり、仲間とつながりながら、希望をもって自分らしく暮らし続けることができる考え方。

新しい認知症観を４つの視点で理解する

認知症は変化の一部



認知症は「生活の変化」として誰にでも起こり得る身近なことです

できることを一緒に



本人を中心に、家族や地域の人が一緒にできることを考え、支え合いましょう

地域で支え合う



地域でつながり、支え合うことで安心して暮らせるまちになります

自分らしく暮らし続ける



認知症になっても、その人らしさや希望を大切にし住み慣れた地域で暮らし続けられる社会を目指します

■小・中学校の部

優秀賞

かわらない
にっこりえがお
たからもの

鈴木　悠世

大西先生の評

ひらがなで全て書かれたのが良かった。にっこりえがおを大切に思う気持ちがすごくわかります。

優秀賞

何度でも
教えてあげる
僕のこと

赤木　杏那

大西先生の評

僕のこと忘れてしまっても大丈夫。何度でも何度でも教えます、という優しさに感激。

■高校・一般の部

優秀賞

道草が
上手になった
母といる

前野　拓海

大西先生の評

家に帰る道もおぼつかない母を道草が上手になったと詠まれた作者。現実の厳しさにも一条の光が射したよう。

優秀賞

忘れても
今日の笑顔で
晴れる空

ケアマネおじさん

大西先生の評

気の持ちよう、なんて生易しい日常ではないはず。でも、その笑顔で空だって晴れになる。頼もしい一句です。

■小・中学校の部

佳作

忘れても大好きだから大丈夫　益崎　奏愛

変わらない祖母の温もりいつまでも　小西　樹生

忘れても声をかけるよ笑顔でね　川床　茜

隠さずに言ってもいいよ認知症　常松　咲人

わすれてもやさしさ残る春の風　山本　梨愛

大丈夫記憶の先に残る愛　束感まつ毛

忘れても繋がっている赤い糸　モルモット

社会福祉協議会賞

何回も初めてみたいに答えるよ　藤堂　功大

忘れても変わらぬ笑顔「よく来たねぇ」　人見　海吏

おばあちゃん「まい」はわたしのおかあさん　松本　菜未

■高校・一般の部

佳作

お母さん次は私が母になる　藤田　佐智子

何度でも聞いて笑って終わりなし　田岡　いく代

できないを数えるよりもできること　たかみんご

そばにいて背なをトントン見えぬ糸　川口　泰代

忘れても君は君だよ変わらない　ぱくちゃん

物忘れしても日課の散歩する　ケンチャン

名は忘れ笑顔覚えたそれでいい　さわっち

認知症に関する相談は
こちらまで

リポート地域活動

貴崎校区

貴崎校区まちづくり協議会
「第1回 貴崎マップ作りミーティング」





8月8日に貴崎みんなのひろば“よっといで”にて「第1回貴崎マップ作りミーティング」が開催されました。地域の『いいところ』を気軽におしゃべりしながら、貴崎のまちのいろんな情報をまとめたマップを作成しよう！ということで始まりました。

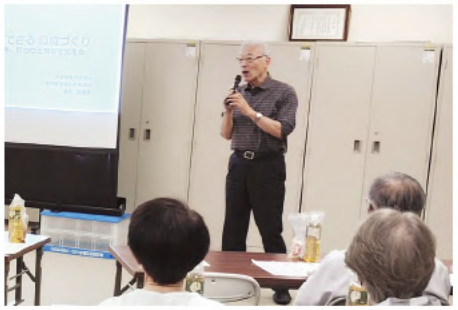
貴崎の住民の方が集まり、貴崎小学校区の大きな地図を囲んでいます。お店はピンク、施設（事業所や会館）は水色、活動（ボランティアやサロン）はオレンジなど、色分けされた付箋に思いつくままに書き込み、地図に貼り付けていきました。続々と増えていく付箋に驚きの声も上がりつつ、「ここにそんなお店があったんだ」など新たな発見もあり、改めて自分たちの暮らすまちを知る良い機会となりました。

貴崎校区まちづくり協議会では『結ぼう🎀貴崎～みんなよっといで～』をビジョンとし、今年度まちづくり計画を策定されています。「“貴崎に住んでよかった”と住民が思えるまちにしたい」「貴崎のまちの良い所をもっと知ってほしい」という想いが込められたこの協議会が、人と人を結ぶきっかけとなり、より住みよいまちづくりへと繋がると思います。

江井島校区

2026年活動開始
「ふれあいサロン エクセランス大久保」





5月27日「だれもが気になる認知症のことを聞いてみよう」と題して、明石医療センター　廣瀬彩由美 認定看護師による認知症に関する講話が行われました。たくさんのフレイルサポーターや民生児童委員さんなどのご協力のもと約20名が参加されました。

講話の前にはフレイルサポーターによるイレブンチェック（フレイルの診断）が行われ、参加者自身が自分の健康状態について知ることができ、また、講話の後の質疑応答には、明石医療センター　吉田俊一医師も登壇され、会場を巻き込んだ意見交換は、大盛り上がりでした。

2026年1月、江井島地区屈指の大規模集合住宅に誕生したふれあいサロンエクセランス大久保は、今後も医療や健康についての勉強会をきっかけとして、有意義な活動を続けていきます。

みなさんの「好き!」「楽しい」をつないでいきます!

ちょこっとボランティア体験会を開催

ボランティア活動の楽しさをもっと身近に見て、知って、体験してほしい!そんな想いで、8月2日に大蔵会館にて初めて「ちょこっとボランティア体験会」を開催しました。明石市ボランティア連絡会、中崎小学校地区社会福祉協議会、明石市ボランティアサポーター協議会、明石市ボランティアセンターの主催で、多くのボランティアの皆さまにご協力いただき、5つの体験ブース(傾聴・アロマハンドケア・音声訳・手話・栄養ラボ)と相談ブースに加え、熱中症予防のために給水スポットも設けました。











30名以上の方が来場され、それぞれのブースから話し声が絶えることはなく、来場者の感想も「楽しかった」との声が多く寄せられました。地域でのボランティア体験会はまだ始まったばかり。今後市内の他の地区でも開催を予定しています。その際はぜひお越しいただき、私たちと一緒にボランティアの世界をのぞいてみませんか?

ご協力ありがとうございました✨（敬称略）

・中崎なかよし会・あかし傾聴ボランティアグループほほえみ
・アロマボランティアサークル「ラベンダー」
・サークル音のさんぽみち・手話サークルつくしんぼ
・栄養ラボ135°認定栄養ケアステーション・中崎まちづくりの会

問合わせ　明石市ボランティアセンター（地域支援課内）　☎924-9106　FAX 924-9109

善意銀行

令和８年６月20日 ～ 令和８年９月10日(預託日順)

金銭預託　計10名（596,000円）

●中嶋　美貴 様　●中原　聡 様　●遺品整理のプラバーズ 様　●明石市立王子小学校 様
●匿名６名（現金書留や善意銀行口座への振り込みなど、匿名で金銭預託いただいた方を含んでいます。）

物品預託　計22名（食料品、日用品、車いす、介護衛生用品など）

●生活協同組合コープこうべ 様
●パナソニック 松愛会 兵庫西支部 様
●株式会社ダイエーKOHYO明舞店 様
●ヒラキ株式会社 岩岡店 防犯室 様
●株式会社マルハン 明石大久保店 様
●池内　裕子 様
●谷　和実 様
●上月　美鈴 様
●藤岡　真也 様
●渡辺　美佐野 様
●匿名12名

物品払出　計14件


株式会社マルハン
明石大久保店 様(右)より


パナソニック松愛会
兵庫西支部 様(右)より

問合わせ　地域支援課　☎924-9106　FAX 924-9109

地域福祉フォーラムを開催





７月30日に、2026年度地域福祉フォーラムを地区社会福祉協議会会長会と明石市社会福祉法人連絡協議会（ほっとかへんネット）の共催で実施しました。３回目の開催となる今回は市内各地から約60名の参加者があり、活発に情報交換が行われました。

事例発表では、２団体から自治会圏域での有償のささえ合い活動についてご報告いただきました。

「中谷ご近所ささえ合いの会」様は活動の状況と、新しく立ち上げた「おしゃべり喫茶」の活動経緯などについてお話いただきました。また、「西岡高齢者支援サービス協議会」様からは、西岡地域の特徴に合わせた送迎サービス等、地域に密着した活動内容についてお聞きできました。

質疑応答では、事業所様から「地域と事業所が一緒にできることはありますか?」等の具体的な連携方法についての質問があり、どうすれば地域の活動に様々な立場の人が関われるのか、というヒントにもなりました。

市社協としても、「ひとりぼっちにしない地域づくり」を目指して、様々な人が出会える機会の創出に、引き続き取り組んでいきたいと思います。

問合わせ　地域支援課　☎924-9106　FAX 924-9109

『ぼうかい生活塾』～交通安全と特殊詐欺被害について～







にしあかし総合支援センターと地域支援課では望海地区にて、住民の方が有意義に保健・医療・福祉を学べる機会として、『ぼうかい生活塾』を開催しています。10月・11月は、明石警察署と協力し、「交通安全および特殊詐欺について」の講義を開催することになりました。今年の４月に道路交通法が改正され、自転車の交通違反にも青切符が導入されたことは、住民の皆さまにも大きな関心事となっています。また毎年増え続けている特殊詐欺被害は、警察も非常に危機感を抱いていて、全世代の方が危機意識を高く持つ必要があるとおっしゃっています。高齢者だけに留まらず、全世代の方が交通マナーについての正しい理解と、特殊詐欺被害に遭わないための知識と備えが必要です。参加をご希望の方はにしあかし総合支援センターまでお問合わせください。

問合わせ　にしあかし総合支援センター　☎924-9113　FAX 925-2799